

科目名 (英)	経絡経穴学 I Meridian Acupuncture I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限
後期						

【授業の学習内容】

身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。
経絡経穴学はIとIIで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちIでは経絡経穴総論、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の経穴を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。

【到達目標】

鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身につける。なお目標②～③については、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の7つの経脈を対象とする。
目標①「経絡」「経穴」とは何か。その定義、概要、臨床的意義について説明できる。
目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。
目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。
目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。

授業計画・内容

1回目	導入:鍼灸師にとって経絡経穴とは? 学ぶ意義と到達目標について解説を行う。
2回目	導入:授業の進め方と評価の仕組みについて解説を行う。解剖学・東洋医学概論確認テストを行う。
3回目	手の太陰肺経①(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察(触察)を行う。
4回目	手の太陰肺経②:経穴部位の解説を行う。総論①:骨度法について解説を行う。
5回目	総論②:経絡、属絡関係、正経十二経脈について解説を行う。
6回目	【小テスト①】肺経 肺経の取穴(★):肺経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
7回目	総論③:奇経八脈と正経、経脈の分類について解説を行う。
8回目	総論④:経穴、経穴に現れる反応、要穴①について解説を行う。
9回目	【小テスト②】総論①～③ 総論①～③の復習ワーク:一般の方へ「経絡」をどう説明するか考える。
10回目	総論⑤:要穴②について解説を行う。
11回目	【小テスト③】総論④～⑤ 総論④～⑤の復習ワーク:一般の方へ「経穴」をどう説明するか考える。
12回目	手の陽明大腸経①(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察(触察)を行う。
13回目	手の陽明大腸経②:経穴部位の解説を行う。
14回目	【小テスト④】大腸経 大腸経の取穴(★):大腸経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
15回目	任脈(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察(触察)を行う。経穴部位の解説を行う。
準備学習 時間外学習	(目標①)単元終了後の復習プリントの実施。学んだ内容を基に、身近な方へ説明をする実践的トレーニングが必要です。 (目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。 (目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。 (目標④)単元終了後の復習プリントの実施が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	単純な暗記科目と捉えられ、暗記が苦手な学生には敬遠されがちな科目です。しかし、実際には【授業の学習内容】に記した通り、治療において活用する知識を学ぶ科目です。今後学ぶ科目との関連性や臨床での意義を十分理解した上で、覚えるだけの勉強にならないようにしてください。 授業計画:この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書:解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版

科目名 (英)	経絡経穴学 I (Acupuncture Meridians I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限
後期						

【授業の学習内容】

身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。
経絡経穴学はⅠとⅡで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちⅠでは経絡経穴総論、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の経穴を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。

【到達目標】

鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身につける。なお目標②～③については、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の7つの経脈を対象とする。
目標①「経絡」「経穴」とは何か。その定義、概要、臨床的意義について説明できる。
目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。
目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。
目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。

授業計画・内容

16回目	【小テスト⑤】任脈 任脈の取穴(★):任脈の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
17回目	足の陽明胃経①・足の太陰脾経①(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察(触察)を行う。
18回目	足の陽明胃経②:経穴部位の解説を行う。
19回目	【小テスト⑥】胃経① 胃経の取穴(★):胃経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
20回目	足の陽明胃経③:経穴部位の解説を行う。
21回目	【小テスト⑦】胃経② 胃経の取穴(★):胃経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
22回目	足の太陰脾経②:経穴部位の解説を行う。
23回目	【小テスト⑧】脾経 脾経の取穴(★):脾経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
24回目	督脈①(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察(触察)を行う。
25回目	督脈②:経穴部位の解説を行う。
26回目	【小テスト⑨】督脈 督脈の取穴(★):督脈の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
27回目	手の太陽小腸経①(★):取穴に必要な局所解剖について確認し、観察を行う。
28回目	手の太陽小腸経②:経穴部位の解説を行う。
29回目	【小テスト⑩】小腸経 小腸経の取穴(★):小腸経の経穴部位の理解を深めるため、学生同士で取穴を行う。
30回目	ワーク:経絡・経穴の説明を实践する。

準備学習
時間外学習
(目標①)単元終了後の復習プリントの実施。学んだ内容を基に、身近な方へ説明をする実践的トレーニングが必要です。
(目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。
(目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。
(目標④)単元終了後の復習プリントの実施が必要です。

評価方法
成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。
『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。

受講生へのメッセージ
単純な暗記科目と捉えられ、暗記が苦手な学生には敬遠されがちな科目です。しかし、実際には【授業の学習内容】に記した通り、治療において活用する知識を学ぶ科目です。今後学ぶ科目との関連性や臨床での意義を十分理解した上で、覚えるだけの勉強にならないようにしてください。
授業計画:この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書:解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版